

(開催概要)

地域からエネルギーの未来を創る緊急シンポジウム

「自然エネルギーは地域のもの」

主催：(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

(「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発領域)

共催：総務省(地域力創造グループ地域政策課 緑の分権改革推進室)

■趣旨：

3-11とそれにつづく未曾有の出来事の中で、多くの人々が、家族を・友を失い、また、広域放射能汚染という新しい事態に直面して苦しんできました。直後の混乱期をようやく脱しつつあるいま、私たちは、被災の有無にかかわらず、従来の思考パターンをのり超えて、これからのエネルギーと環境について、建設的かつ現実的な新しい方向性を確立するという、重要な課題に直面しています。

この間、温暖化・気候変動対策の切り札のひとつである自然エネルギーが、地域の防災やエネルギー自立の面で大きな価値をもつことが広く認識され、その導入・普及に、これまでにないスピードと確実さが求められるようになりました。その導入にあたっては、地域の活力を高めるような仕組みが必要であることへの認識も、以前に比べ、格段に高まっています。

そのような折、現在、「新・エネルギー基本計画」、「新地球温暖化対策」、「新原子力政策大綱」等に向けた選択肢を国民に提示するために、識者による検討が集中的に進められています。今夏には、「国民的議論」を経て計画や戦略が策定され、さらに「革新的エネルギー・環境戦略」が決定される予定です。並行して、再生可能エネルギー固定価格買い取り制度の実施のための議論も進められており、一部には自然エネルギーへの投資をめぐって加熱した状況も現れています。

そもそも、地域分散的な自然エネルギー資源は、古来、自然の恵みとして、地域の人々によって大切に利用されてきました。化石燃料等のふんだんな供給のおかげでその価値が忘れられてしまったのは、わずかにこの50年ほどのことです。いま、地域の人々は、自然エネルギー資源の価値をあらためて自覚し、これからの生活に積極的に生かしていかなければなりません。エネルギーをめぐる議論がかつてない重要な時期に差し掛かっているいま、「自然エネルギーは、地域の人々の主体的な参加の下に、地域の豊かな生活に資する形で利用すべきものである」ということを、再確認することがきわめて重要になっています。そこからはじめてこそ、自然エネルギー利用の大幅増を、皆が納得できるやりかたで、早期に実現できるのではないのでしょうか。

私たち科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX)(「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発領域)と、「緑の分権改革」を進めている総務省(地域力創造グループ地域政策課 緑の分権改革推進室)は、各省のご後援を得て、地域からエネルギーの未来を開拓するという、まさにこの時期にふさわしいシンポジウムを企画いたしました。

今回のシンポジウムでは、まず、3-11後のエネルギー戦略のなかで、地域からエネルギーの未来を創ることの必要性、そのための自然エネルギー宣言や基本条例の必要性等を論じ、具体的文言案を示します。また、その実現が可能であることを、専門家や普及活動を行っている方々からお話しいたします。ついで、地域に根ざした自然エネルギーの利活用を先進的に進めておられる全国各地の首長の皆様に、事例や決意のほどをご発言いただきます。それを受けたパネル討論・全体討論を経て、自然エネルギー大幅拡大を地域の活力で行い、また活力の一層の向上に確実に結び付けていくことをめざして、「6-6 地域自然エネルギー宣言」(仮称)の採択を行う予定です。多数の皆様のご参加をお待ちいたします。

■参加費：無料

■日時：2012年6月6日(水) 13:00~18:00

■場所：イイノホール 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1

東京メトロ 日比谷線・千代田線 「霞ヶ関」駅 C3出口 徒歩1分、

東京メトロ 丸の内線「霞ヶ関」駅 B2出口 徒歩5分 東京メトロ 銀座線「虎ノ門」駅 9番出口 徒歩3分

東京メトロ 有楽町線「桜田門」駅 5番出口 徒歩10分

地域からエネルギーの未来を創る緊急シンポジウム

「自然エネルギーは地域のもの」

シンポジウム HP : <http://www.hakushu-arts.co.jp/sympo2012/index.html>

日時：2012年6月6日（水） 13:00～18:00

場所：イイノホール（地下鉄「霞ヶ関」駅 徒歩1分）

主催：（独）科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）（「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発領域）

共催：総務省（地域力創造グループ地域政策課 緑の分権改革推進室）

後援（申請予定）：文部科学省、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国地方新聞社連合会、日本エネルギー学会、エネルギー・資源学会、自治体学会

時間	内容（敬称略）
13:00 - 13:05	■ 開会挨拶 科学技術振興機構（JST）理事長 中村 道治
13:05 - 13:40 (35分)	I 本シンポジウムの視点 I-1. 緑の分権改革の推進について 総務省 地域力創造審議官 門山泰明 I-2. 地域に根ざした脱温暖化 R&D 領域から —シンポジウムのねらいと本日の宣言案— 領域総括・龍谷大学教授・東京農工大学名誉教授 堀尾正靱
13:40 - 14:20 (40分)	II 地域と自然エネルギー II-1. エネルギーの将来ビジョンと地域の重要性 資源エネルギー庁（交渉中） II-2. 地域が主体のエネルギービジョンを ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田裕子 II-3. 地域自然エネルギー条例の必要性とひな形案 法政大学教授 船橋晴俊
14:10 - 15:10 (50分)	III こうすればできる！自然エネルギー大幅拡大 III-1. 小水力への新しい展望 九州大学教授 島谷幸宏 III-2. 地域力風車こそ風力の主流たるべし ウインドコネクト 齊藤純夫 III-3. 森林を破壊しない持続的なバイオマス利用を 土佐の森・救援隊 中嶋健造 III-4. こうすればできるカネ・仕組み・人づくり 早稲田大学 岡田久典・東京都 谷口信雄
15:10 - 15:40 (30分)	休憩・パネル展示（ホワイエ）
15:40-16:25 (45分)	IV 地域主体で取り組む自然エネルギー利用（順序は変わることがあります） IV-1. 北海道ニセコ町 町長 片山 健也 IV-2. 徳島県上勝町 町長 笠松 和希 IV-3. （交渉中） IV-4. 滋賀県湖南市 市長 谷畑 英吾 IV-5. 長野県飯田市 市長 牧野 光朗 IV-6. 富山県南砺市 市長 田中 幹夫 IV-7. 徳島県知事 飯泉 嘉門
16:25 - 17:55 (90分)	パネル討論 コーディネーター：岡田久典 上記スピーカー、堀尾正靱、崎田裕子 今後に向けての提言 司会：堀尾正靱
17:55 - 18:00	■ 閉会挨拶 科学技術振興機構（JST）

（本プログラムは、状況の進展等に伴い、さらに変更を加える可能性があります）

【会場案内】

イイノホール

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-1-1



利用可能路線

- ・東京メトロ 日比谷線・千代田線 「霞ヶ関」 駅 C3 出口 徒歩 1 分
 - ・東京メトロ 丸の内線 「霞ヶ関」 駅 B2 出口 徒歩 5 分
 - ・東京メトロ 銀座線 「虎ノ門」 駅 9 番出口 徒歩 3 分
 - ・東京メトロ 有楽町線 「桜田門」 駅 5 番出口 徒歩 10 分
 - ・JR 山手線・京浜東北線・東海道線・横須賀線、都営地下鉄浅草線、ゆりかもめ 「新橋」 駅 徒歩 10 分
 - ・都営地下鉄 三田線 「内幸町」 駅 A6 出口より日比谷シティ経由で直結
- 空港へのアクセス

成田空港

成田エクスプレス（東京駅より）...約 47 分

リムジンバス（東京駅丸の内北口／八重洲口より）...約 80 分

羽田空港

JR+モノレール（東京駅より）...約 34 分

リムジンバス（東京駅八重洲口より）...約 40 分